

厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）

（総合）分担研究報告書

研究課題：プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究

近畿ブロックにおけるプリオン病サーベイランス状況

研究分担者：望月秀樹

大阪大学大学院医学系研究科神経内科学

研究要旨

2015年4月以降2019年10月末までの近畿ブロックにおけるプリオン病サーベイランス状況。合計347例について調査依頼があり、155例から調査結果の回答が得られている。また、2011年より2013年度末までに、近畿ブロックでは190例分の調査結果が未回収であったが、都道府県担当専門医をつうじて各施設への働きかけを行った結果、2019年10月末までの時点で147例から調査結果の回答が得られている。

A. 研究目的

近畿ブロックにおけるプリオンサーベイランス状況

B. 研究方法

近畿ブロックにおけるプリオンサーベイランス状況について報告し、現状での課題について検討する。

（倫理面への配慮）

今回の報告に関しては個人情報保護の観点から、個人が特定できるような情報に関しては一切開示しないように配慮を行っている。

C. 研究結果

2015年4月以降2019年10月末までの近畿ブロックにおけるプリオン病サーベイランス状況について、合計347例についての調査依頼があり、大阪府

141例、兵庫県85例、京都府54例、滋賀県28例、奈良25例、和歌山県14例であった。このうち155例から調査結果の回答が得られている。また、2011年より2013年度末までに、近畿ブロックでは190例分の調査結果が未回収であったが、今年度、改めて都道府県担当専門医を通じて各施設への働きかけを行った結果、2019年10月末までの時点で147例から調査結果の回答が得られている。

D. 考察

93例のほぼ確実例が確認され、78例が孤発性CJD、15例に遺伝子変異を認めた。V180I 8例、E200K 3例、M232R 2例、P102L 2例である。

E. 結論

今後も継続して各都道府県の担当医と連携し、未回収の調査結果の回収努力を行う予定である。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 原田雅史. MRI 検査が診断の決め手となる認知症. Rad Fan 2020.; 17: 51-54

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし